

平成 27 年度 （後期）福祉文教委員会行政視察報告書

日 程 平成 27 年 10 月 27 日
視察場所 東京都杉並区・大田区
参加者 委員
高橋利典 長田文明 佐藤朋裕 鎌野政之 土屋光行
黒澤佳壽子 菱川順子
学校給食課長 小野喜勝
議会事務局 藤曲幸子

視察内容

杉並区立三谷小学校 「スーパー食育スクール」における食育を題材とした総合的な学習について

校長 山岸一良 議会事務局 福羅克巳

校長より「地域ではぐくみ・世界へ巣立つ三谷の子」と題してパワーポイントにて説明を受けた。

命を学ぶ為に、体づくり・食育・生活習慣づくり・こころの健康づくりに取り組んでいる。

「学校・家庭での和食推進の取り組みを通じた社会性の向上と生活リズム改善」を实践。国より 600 万の助成を受け、取り組みを学校から社会に発信している。

- 1 国産材を使用した和食給食。
- 2 生産者と交流 忍野村で田植えや刈取り体験を実施、その米を 400 キロ学校が買い取り給食に使用。
北海道の漁港と提携し新鮮な魚介を安く購入。
- 3 校庭の畑で大根・かぶ等の野菜を栽培し収穫祭を実施している。
- 4 栄養教諭の存在が大きい（杉並区で 2 名）
- 5 弁当の日を設置し、家庭で料理に親しむ取り組み。



校庭脇の畑

視察感想

校長の熱意と栄養教諭の説得力そして PTA の協力が一体となって実現している事が印象的であった。

農業体験や仕入れ等工夫の中に、和食を通して配膳の位置などの作法や命をいただく事



の大切さ、生活のリズムをつくりイライラ感の解消に成果を上げている。
当市においても参考にすべき点は多い。

視察内容

東京都大田区 「高齢者の実態と介護計画」について

議会事務局次長

政木純也

福祉部介護保険課長

小泉邦雄

福祉部高齢福祉基盤担当課長

田村彰一郎 他職員

- 1 介護保険業務状況について、保険者数・認定者数・サービス受給者数・特養の申し込み状況や施設数について説明を受けた。
- 2 地方の社会福祉法人の参入動向は、現在秋田・川崎市・東京の法人が特養整備を行っていて、青森・愛知・兵庫・広島・岡山・高知等から相談を受けている。
- 3 相談の多い理由は羽田空港を利用することで移動がスムーズ。
- 4 杉並区と南伊豆町の連携については、大田区では高齢者実態調査の結果約 50 パーセントが自宅を希望していることで、区内での設置を基本に計画的に整備を進めていく。
- 5 入所待機者は 1000 名程度で、緊急を要する利用者は少ない。

視察感想

新聞等で東京都の高齢者は介護難民となるような報道がされているが、現実的には東京で解決できるとの説明であった。

介護人材についても、有効求人倍率 2.7 と地方と変わらないが、地方創生で問題となっている東京への人口流出は歯止めが掛からない事。人事交流との説明であったが地方からの雇用を考えている。首都圏に近い当市としては人口流出防止策を早急に考えなければならないと感じた。

